

甲田の裾

KŌDA NO SUSO



「三内伽羅松ノ画譜」より「晩秋 新城図」工藤正廣 画

2016

4号

通巻691号

松丘保養園の機関誌

平成28年度 物故者慰霊祭



10月24日、三村申吾青森県知事、青森市長代理・能代谷健康福祉部長をお迎えして慰霊祭が執り行われ、昨年よりの物故者5名を含む保養園創立以来の物故者の御霊に哀悼の意を捧げました。(写真下、祭詞を読む石川自治会長)

川西健登園長の祭詞は2頁より掲載しております。

甲田の裾 平成28年4号 通巻691号 目次

平成28年度物故者慰霊祭

平成28年度物故者慰霊祭 祭詞 …………… 園長 川西 健登 … 2

松丘保養園の由来と納骨堂の変遷について

…………… 入園者自治会 会長 石川 勝夫 … 6

第13回教育講座 青森県の短命から学ぶもの—前編

…………… 弘前大学大学院医学研究科社会医学講座 教授 中路 重之 … 11

桜の根の治療を終えて …………… 樹木医 逢坂 淳 … 22

桜の根の治療体験感想文 …………… 青森市立新城中学校2年生 … 26

旧友との旅 …………… 木村 龍一 … 31

コーヒー喫茶おもいで …………… 治療棟看護師 工藤 まゆみ … 35

人事異動 …………… 39

成瀬豊画文集刊行のお知らせ …………… 40

自治会日誌・編集後記 …………… 41

表紙：工藤正廣 画「三内伽羅松ノ画譜」より「晩秋 新城図」

※ロシア文学者で詩人の工藤正廣氏の描いた松丘保養園の絵巻の
中から季節の風景を紹介させていただいております。

写真提供：福祉室

「甲田の裾」バックナンバー(平成24年1号～)は
下記ホームページより閲覧いただけます。

松丘保養園のインターネットホームページ

<http://www.nhds.go.jp/~matuoka/>

平成二十八年度物故者慰霊祭 祭詞

国立療養所松丘保養園 園長 川 西 健 登

今年の秋は例年より暖かく感じていましたが、十月も下旬で寒くなり、木々の紅葉、八甲田山が雪をいたたく季節になりました。早一年が巡りました。本日、平成二十八年度物故者慰霊祭にあたり、三村申吾青森県知事、青森市長代理・能代谷健康福祉部長をお迎えし、入所者のみなさま、職員、関係者一同、松丘保養園で亡くなられた方々を想い、御霊に対し追悼の祈りをお捧げするためにここに集っております。

昨年の慰霊祭からこれまで一年間に、松丘保養園で五名の入所者が逝去されました。昨年十一月に鎌田アイさん九十一歳、香川松郎さん九十三歳、今年三月に丸谷金太郎さん八十三歳、五月に中村武三さん九十四歳、そして八月に滝田十和男さん九十一歳の方々がす。これによりまして本園が明治四十二年に北部保養院として創立されてから一〇七年間に亡くなられた方は、入園者一、六六二名、未感染児童十五名、生まれ

ることなく亡くなられた子供さん二名となりました。このうち、保養園の納骨堂に合祀されている御霊は一、一四三柱です。心から哀悼の眞をお捧げいたします。

亡くなられた五名の入所者の在園年数は四十八年から七十九年に及びますが、決して保養園の中だけで生きられたわけではなく、ある方はご家族とともにご家族の世話もされ、ある方は社会的に重要な働きもされ、ある方は軍人として戦地に赴かれ、ある方は若くして園を出て行商の旅も経験されました。しかし結局のところ、この方々は郷里から、ご家族から決別してこの松丘保養園でそのご生涯を終えられました。この方々とそのご家族が舐められた辛酸は私共の想像をはるかに超えています。私共はただ跪いて首を垂れるしかありません。ある入所者がご友人に「あんたの母親もおらえの母親もよ、おらだちさ喋らねえごともあつたべ。喋るにいいごだけ、ちよこつとしゃ

べって死んでいったと思うよ」と話されたように、この五名の方々も言いたいことのほとんどを飲み込んだまま、黙して逝かれたと思います。ご高齢であつたとはいえ、本当に惜しい得難い方々を失いましたことが残念でなりません。

この方々は私たちに大きな課題も残されました。

滝田十和男さんは亡くなる二週間前に委託先の病院へ転院されるにあたり、「他の病院に行く体力もないので松丘保養園でお願いします」と言われるのを、園長である私のお願いをなんとか受け入れて転院してくださいました。転院されてからも、「松丘で死なせてください。治療が終わったら松丘で一生を終わらせていただきます」と言われました。滝田さんは松丘の納骨堂の下の水が一番おいしいと言われるので、当園の看護師が毎日炎天下、その水を運んで飲んでいただきました。「息が苦しくても大丈夫です、私未来がありますから」とおっしゃったのが亡くなる十日前、「もう限界にきました、お世話になりました、松丘に帰りたい」と言われたのが亡くなる八日前でした。十四歳で入所してから間もなく父上をここで看取り、爾来七十九年間を松丘保養園で過ごされた滝田さんの、

「松丘保養園で生涯を終えたい」という最後の願いをかなえて差し上げることができなかつたことは私の生涯の痛恨です。

丸谷金太郎さんには以前から視覚障害があり、三年余り前から肺癌を発症し、その治療により放射線肺臓炎を併発し、又その治療により難治性の感染症をきたし、その過程で徐々に腎機能が低下し血液透析を余儀なくされました。肺癌は初期だからと治療を勧めた最初から「一か所ほじくれば次から次へ出てくる繰り返しだからよ。自然体で、優しく、あまり苦しまずに安らかに逝きたい」と治療にはなかなか同意されませんでした。それでも「外来通院で済むなら」と放射線治療を受けて下さり、「長く付き合っている煙草を止めるわけにはいかない、黙認するところは黙認して含みをつけろ」と言っていた喫煙もいつの間にか止めておられました。ただ、昨年の秋、ほぼ限界まで来た腎不全に対する透析は、お勧めしても頑として受け入れず年を越し、これはもう仕方がないかと半分諦めていました。そんな折、新年の一月二日に一緒にアイスクリームを食べた頃から何かが変化したようで、専門病院での透析治療に同意してくれました。「ミコのためにがん

「ばる」と言われました。それからしばらくの間、通院による透析治療で順調に経過していましたが、三月下旬に突如として召されました。死因はおそらく腹部大動脈瘤破裂でした。主治医として、直接死因となった腹部大動脈瘤について事前に適切に対処できていなかったことについて、私は丸谷さんとご家族に申し訳なく、ずっと自責の念に悶々としておりました。

先週のはじめ、私は丸谷さんからの手紙を奥さんのミコさんから手渡されました。そこには次のように書かれていました。

「先生ではなく、アイスクリームのお友達として、本当にありがとうございます。一緒に食べて悔しさ、悲しさ、苦しさ忘れて本当に楽しかったです。ありがとうございます。これからもミコの事、よろしくお願います。お世話になりました。向こうに行ってもアイスあるかしら。さようなら。丸谷 二〇一六年三月三日、川西様」

それは丸谷さんが亡くなる三週間ほど前に口述され、亡くなつてから六か月経つたら渡すようにミコさんに託されていた手紙でした。私は深い慰めをいただきました。やはりアイスクリームと一緒に食べたあの午後のひと時が、丸谷さんとの間で何かが通じた、永

遠につながる望みが生まれた時であったのかもしれない。

丸谷さんは「考えてみりゃ、悔しいんだ」若い頃、漁師になりたくて船も買ってもらつて、さあこれからという十八歳でハンセン病を発病して保養園に連れて来られて六十七年の在園生活、その中で徐々に視覚を失い、様々の病気を併発した。「ひとつの病気がこれだけ広がって止まらない、最後の最後までこんだべ、最後に行き詰つてことごとく行くと行く、どもこもならねーな」すべては丸谷さんが予想した通りでした。様々な治療的介入は、大勢を変えるには無力でした。その中で丸谷さんを支えた最も大きな力は「俺たち夫婦は他とは違うんだ、一心同体だ」と言われたミコさんとの絆、ご夫婦の愛であつたことは間違いありません。

私たち職員はそれぞれの専門職として、あるいは医師として、看護師として、介護員として、福祉職員として入所者に関与します。専門職としての働きが十二分に為されることは職員として当然の責務です。しかしそれと同時に、あるいはそれ以前に、入所者のみなさんが求めておられるのは、私たちが一人の人間として心を開いて入所者の傍に真実に立つ、そのことではないだろうか、それが問われていると思つたのです。

ミコさんによれば今年のお正月以降、丸谷さんは午後二時のおやつの間になると、「今日はアイス食べに来るかな」と言っておられたとのこと。私はその後、丸谷さんが亡くなられるまで一度もアイスを一緒にすることができませんでした。忙しい、忙しいと言いつつ、一週間に一度、でなくても一か月に一度くらいは一緒にすることができなかったとはいえない。いや、そういうことでなくて、丸谷さんが「アイスクリームのお友達」と認めてくださったその友情に自分は真実にお応えしたのだろうか、省みて慙愧に堪えません。

松丘保養園の職員は毎日の仕事の中で入所者のみなさんとの交わりを深めています。初めて新幹線に乗って郷里のご実家へ墓参りに行く入所者さんと同行了した職員、亡くなられ入所者から受け継いだ鸞草を大切に育てて毎年花を咲かせてくれる職員、入所者の求めに応じて車椅子を押して三内霊園まで長時間の散歩を共にしている職員もいます。また職員が自宅から持ってきた人形で情緒が豊かに回復している入所者もいらっしゃいますし、入所者さんに昔食べた料理を職員が教えてもらいながらいっしょに作りみんなでしたく

「思い出食堂」では、入所者さんが「このようにして私たち入所者が職員と新しい思い出を作っているのになにより嬉しい」とおっしゃったそうです。このようないくつ日常生活の中での看護・介護を超えた入所者と職員の人としての交わりの中で恵みのうちに創造され受け継いでいくものがある、それが次第に地域社会に広がっていく、そこに松丘保養園の希望があります。

私たちは三村青森県知事をはじめ心ある青森県民、青森市民のみなさまのご理解とご尽力に支えられて、残された入所者のみなさまがここ松丘保養園を第二の故郷としてご高齢期の生涯を安心して有意義に全うしていただくことができるように全力を尽くさせていただきます。

かつてここで苦難の生涯を生きぬかれ、今は天にある入所者のみなさまの厳しくも暖かい眼差しに感謝し、御霊の平安を祈り謹んで哀悼の眞をお捧げ致します。

平成二十八年十月二十四日

※逝去された方のお名前は、ご遺族の了解を得て掲載しております。

松丘保養園の由来と納骨堂の変遷について

松丘保養園入園者自治会 会長 石川勝夫

私達が療養生活を送る松丘保養園は、明治四十二年（一九〇九年）東北六県及び北海道の連合立として、「第二区道県立北部保養院」の名称で設立されました。その後、昭和十六年七月一日に厚生省に移管となり、「国立療養所松丘保養園」と現在の名称に改称されて、日本に於いて最北端の国立ハンセン病療養所として現在に至っております。開園から今日まで一〇七年以上の歴史を刻んでまいりました。

その由来をここにご紹介いたします。

陸奥湾そして青森市街地を一望のもと、南には八甲田の山脈、遠くの西南には岩木山の山頂を望み、旧新城村（現新城地区）の辺地江渡村（現石江江渡地区）、旧三内村沢部（現三内地区）、それらの境界には小さな谷間を形成しておりました。春には雪が解け、時折降る雨、これらが自然の恵みとなってあちこちから湧き出して、その水が集められ、清浄なる小さな川となっておりました。

この小さな川を境に、樹木の生えない三内村沢部地区とは対照的に江渡村には赤松の林が厚く生い茂り、雑木もまた繁つて、またそれに絡まる山葡萄やあけびの蔓もたくさん見受けられておりました。一面に熊笹が生い茂り、人をも寄せ付けないような原野が広がっていたということです。

まさにここに現在の松丘保養園、当時、北部保養院と銘打った東北六県及び北海道の連合立として公立の療養所が発足したのです。一〇七年以上前の明治四十二年四月一日のことでした。その後、昭和十六年七月一日厚生省に移管し、国立療養所松丘保養園と名

称を変え現在に至っております。しかし、その本当のところは、四月一日の開所にはどうしても間に合わなくて、油川地区にあった隔離病舎を仮の収容所として使用し、同年の十一月一日に現在地に移り今日に至っております。

当初、仮収容所の収容定数は九十名となっておりましたが、五名の患者を収容し発足したのです。当時の職員構成は、青森警察部長兼務の所長が一名、医師一名、書記一名、薬剤師一名、看護師二名、そして小使が二名の計八名によつて運営されておりました。その後少しずつ患者も増えてきて、さらに七月には十五名もの患者が収容され、仮収容所があつた油川地区から現在の石江地区へ移動するとなつた時には、二十余名に及ぶ患者がいたということです。

その引越しの風景というのが異常ともいえるような有様でした。それは荷物さながらに馬車に乗せられ、シートで蔽われたまま運ばれたと言つてもいいぐらいでした。しかし、それでも良い環境の地域に新しい病院が建設され、そこに移ることができるということがよつぽど嬉しかったのか、彼等の心は弾み歓喜の声を上げていたということです。

苦しみを痛める癩を患う患者は、巷に生を求めるところに彷徨しておりました。そして保養院の定床も徐々に増え、大正十一年には一六〇名までになりました。とはいつたものの、患者数に関しては県の割当てというものがあつたわけです。その数に基づいて各県ごとに経費を負担するというしくみだったので。ゆえに、定員以外の患者ということになると、どんなに病が進行していたとしても、空床がないということになると入所することなど出来ない状況であつたのです。それぞれの県・道の財政も苦しい状態ではあつたと思いますが、中途半端としかいえないこの施策というのは、患者にしてみれば漸くこの施設を自分を救つてくれる場所として探し当ててやつと辿り着いたのに、その途端に門前払いをくわされるといつた冷酷な処罰が待つていたのです。また、それにより多くの悲劇が生まれました。

「らい予防法」には、癩病というのは恐ろしい伝染病であるがゆえに、癩患者が発見されたという届け出を受けた都道府県知事は、速やかに伝染が広がらないように隔離収容をするという責任がありました。がしかし、その事実は何十分の一程度の収容能力しか持つ

ていなかったとのことで、法の不備は矛盾につきていたのです。

「癩は恐ろしい伝染病だ。」といった政府の烙印ともいうべきものは、国民の隅々にまで急速に浸透していきました。と同時に、癩菌に冒されてしまった患者は人間の垢外に放り出されていったのです。入所することができた者以外の患者にとつては、苦惱、悲惨、絶望、まさにこれらが錯綜する日々でしかありませんでした。

家族からは見放され、また社会においての総ての絆を絶たれた患者達の生きてゆく道は、残念なことにごにもなかつたのです。それらの多くの人々は、神社あるいは仏閣の軒下等を夜露を凌ぐ場所として、死と隣り合わせのその日暮らしの、その凶悪な苦しみは極限状態それ以上でした。さらに、彼等は癩病を患つた者特有の神経痛に悩まされるのがほとんどで、その苦痛に堪える術として、流浪の旅の中で経験したモルヒネ（アヘンアルカロイド）を求めて、こともあろうに警察に泣きつき何グラムかずつをいただいてきては自ら注射をし、一時凌ぎをしていたといひます。中には、東北六県の主な警察署へほとんど歩いて辿り着い

た患者もいたと伝えられています。このモルヒネを打つと全身がぼかぼかと暖かくなって、全ての苦痛が一瞬のうちに吹き飛び、ボロの着物一枚着ただけでも寒さなど感じないような状況で夜を過ごすことができたのですから、路頭をさまよっていた患者達にとつては、なくてはならない最高の魅力であり、宝のようなものでもありました。

その一方で所内の状況は、強制隔離撲滅が主な目的でありましたので、一旦入所した者については罪人扱いとし、院外への外出は勿論のこと、男女間の交際なども固く禁止され、これらを犯す者には厳罰が待つていました。官権による厳しい監視のもと、一例を挙げますと、朝夕二回の点呼が昭和の初め頃まで続いていたということでした。

患者に対する扱いが冷遇化される中で、入所者は強制隔離絶滅政策による生涯を強いられてきたがゆえに、施設の中にいたつては、入所者が団体生活を営む一つの村としての要素を持ったのでした。

ハンセン病療養所の歴史を振り返つてみるに、筆舌に尽くし難い苦難に満ちた、まさに悲惨な暗い時代が長く続いたのです。

ハンセン病患者は全ての人權を無視され、国の施策方針により、民族浄化の美名のもと強制隔離絶滅なる政策を唯一とし、嚴重なる監視のもと療養所に閉じ込められ、満足な医療など受けられず、極貧の生活を余儀なくされ、果ては病軀をおしてまで所内での作業に従事しない場合は、懲罰の対象として食事すらも断たれるといった過酷な苦難を背負わされ、非業のうちに生涯を閉じざるをえなかつたのです。

前述のように、誤つた国による施策により、いたずらに社会の差別と偏見を助長させ、幾多の悲劇が繰り返されてきているという事実を絶対に忘れてはならないということ、そして、このようなことがどうして基本的人權の尊重を重んじた人々が人生を送るこの国で行われてきたのかを、確かな検証のもとに明らかにしなければなりません。今、私達国民一人ひとりがどう生きていくべきなのかを問い直して、これまで排除してきたハンセン病患者、回復者の生涯に想いを馳せて考えていた、だく機会にしていた、だきたいと思ひます。

国によるハンセン病政策が行われる中、松丘保養園に納骨堂が最初に建立されたのは大正十二年頃ということですが、この納骨堂の建立に至つた資金につきまし

ては、道、県よりの援助なのか、それとも一部の篤志家よりの援助であるのかは定かではありませんが、建立に至つた背景には、それまでは療友が亡くなつてしまつた場合、ある一定の場所に埋葬し供養してきたものの、たとえば慰霊祭を挙げる時、そして何より、御遺族の方が先祖の墓に埋葬して供養をしたいという申し入れがあつた場合等もあり、遺骨の保管の場としての象徴でもありました。建立場所は公園広場の南側にあたる所です。

そして、二度目の建立は昭和二十八年九月、楓林寺と日本聖公会松丘聖ミカエル教会との間に納骨堂が建てられ、この建立に関しては国による補助があつたということです。この理由につきましては、最初に建てられた骨堂の老朽化と併せて、狹隘化してしまい新たに納骨することができなくなり建立に至りました。この二度目の建立が決定してから、入所者達は納骨堂を建設するための資金として、極貧の生活をしているにもかかわらず、その中からしぼり出すようにお金を出し合つたということです。新たな納骨堂はどうしても必要であり、自分達の手によつても何とか建てようと、必死の思いで取り組んでいたものと考えられ、そ

これまで切実な問題であつたのだということがよくわかります。

昭和二十八年、新たに建立された納骨堂に遺骨が入れられた骨箱を移し、きれいに並べ替えようとした時、その骨箱はボロボロにくずれてしまいました。それらの遺骨は供養され、雑骨として納骨堂に収められました。

その年を経過した頃からは、日本聖公会松丘聖ミカエル教会、松丘聖生会、松ヶ丘カトリック教会の三宗教団体は、青森市に所在する三内霊園、月見野霊園の墓地のお墓を借りて、現在に至るまで埋葬を行っております。

そして、いよいよ三度目の建立は、平成二年七月に整備されました現存する納骨堂です。建立された当時の松丘保養園創立以来の物故者数が一、三六九名ということでありましたが、平成二十八年十一月末現在、一、六六三名となりました。内、納骨堂安置者数は一、一四四柱、その内訳として、骨壺安置者数として二六一柱、雑骨者・雑骨未確認者数に至っては八八三柱にもなっております。遺族が引き取った御骨の数として三二六柱、在宅で死亡された数として六七柱、

宗教関係の改葬された御遺骨が一、二六柱埋葬されております。他に二胎児の骨壺、二〇九件に及んだ病理標本も安置されております。

本納骨堂には開園以来、不幸なる人生を送り無念の想いを持ったままその一生を閉じざるを得なかつた人々の御霊が眠っておられます。どうかこの納骨堂が、松丘において人生を締めくくらなければならなかつた皆様方の御霊をお慰めし、安息の場所として安らかにお休み頂きたいと思ひます。

また、この納骨堂は隔離の象徴として永久的に保存し、人權学習の一環として役立てていただきたいものであると希望いたします。

※この稿は、平成二十七年五月、社会福祉法人ふれあい福祉協会発行の「ふれあい福祉だより第十二号」に掲載されたものに加筆した稿です。広く皆様に読んでいただきたく小誌に掲載させていただきました。(編集局)

第13回教育講座

平成二十八年九月十二日

青森県の“短命”から学ぶもの——前編

弘前大学大学院医学研究科社会医学講座 教授 中路 重之



皆さん、こんにちは。というのをやらせていただいて、最後にこういったやりがいのある仕事を与えていただいて幸福だと思っているわけです。

今日は、皆さんには、その短命の話からお話しして、少しでもお役に立てればと思っています。

私は今から四十四年前に、長崎県の諫早というところから来ました。大学受験で弘前大学が私を最後に救ってくれました。それで私はこの青森県が大好きです。青森を自分の故郷だと思っています。ここで最後までいようと思っています。今幸いにも、青森県の寿命延伸というか、短命県返上

今日は、皆さんには、その短命の話からお話しして、

少しでもお役に立てればと思っています。

これから青森県の現状についてちょっと話させていただきます。皆さん、長野県は今日日本の長生きです。長野県が長寿県長寿県と連呼されますので、私、最近長野が嫌いになってきたような気がします。

皆さんに質問させていただきます。青森もりんごじゃないですか。りんご一個は医者を遠ざけるって言うじゃないですか。りんご一個は医者いらずと。これヨーロッパのことわざらしいんですけども。だとすると、信州りんごはやっぱり身体にいいのかという話になりますよね。一

短命から学ぶもの
社会医学講座 中路 重之 教授

青森県の現状

- 日本一の短命県(トップ長野県と2歳半の差)
- どの年代でも死亡しやすい:特に40-60代
- どの病気でも死亡しやすい:特に生活習慣病(がん、脳卒中、心臓病)
- 生活習慣が悪く、健診受診率が低く、病院受診が遅い、通院もわるい→つまり、県民一人ひとりが負けている
- もっと健康の知識(健康教養)をつけて、健康づくりに取り組むべき
- そのためにはどうすればいいかを考えるべき

方、青森りんごは白雪姫のあれですか？みたいになりません。この質問いつも受けるんですよ。「どうなんですか、先生？」って。皆さん、今日は自宅にお帰りになったら必ず話題に出して下さい。答えは簡単です。りんごは関係ありません。そういうことです。

そうですね、昔二百年も三百年も前、ヨーロッパでも食う物がなくて、秋になるとりんごがなるわけですね。そうしたら、栄養的にもいいじゃないですか。ひよつとしたら、寿命に関係あったかもしれない。けど、今は飽食の時代です。食べるものは多種あつて、何を食べようか食べるまいかということに悩んでいる時代ですから、りんご一個はあんまり関係ない。そういうことです。

最短命県の青森県は、長野県と平均寿命で二歳半違うんですよ。ここ今日の一歩のミソです。二歳半っていうのは、人生最後の差じゃないんですよ。青森の人が八十歳まで生きて、長野の人が八十二歳半まで生きるっていうのとちよつと意味が違うんですよ。一言で言えば、青森は中年の死亡が多いんです。中年、四十、五十、六十歳代の人がたくさん亡くなっています。

さてどんな病気で亡くなっているのか。四十歳過ぎたら自殺が多いだろうってみんな言うんです。確かに自殺

は多いんですが、四十歳代でも一割いません。三分の二は三つの病気です。三大生活習慣病、がん、脳卒中（あたり）そしてあと心臓病（心筋梗塞）です。大体この三つの病気で命を取られるんですよ。これをまず覚えて下さい。

青森がどうして短命なのかっていうと、生活習慣病が多いからです。つまり生活習慣が悪いんです。加えて、検（健）診受診率も低いんです。病院受診も遅いし通院状況も悪い。

これまでは、生活習慣のせいだけにしてたんです。生活習慣。喫煙者が多い。日本で一番多いのは青森か北海道ということになっています。それから太っている人が一番多いのは、沖繩らしいんですけど、その次青森がくるらしいです。それから大酒飲み。大体三合以上飲む人一日平均してですよ。一日平均して三合飲むってことは、二日休めば五合飲めるんですよ。食い意地汚い話ですけど、三合飲むって結構なものですね。それから野菜の摂取量が少ない。塩の摂取量も多い。ことごとくですね、長野に負けて、なおかつかなり差をつけられているんです。

ところがですね、最近わかったのは、検（健）診の受

診率も高くないことです。それから、何といつても病院に行くのが遅いんです。びっくりなんですけども、がんの患者さん、病院に行つて診断つきますよね。その時点でもう進んでるんです。だから、命を取られるということになります。それから通院も良くないです。だから糖尿の進んだ人がすごく多いです。目が見えなくなったり、それから尿が出にくくなったり、手足のビリビリがそのままで足が動かなくなったり。こういった合併症が青森は圧倒的に多いです。つまり、タバコだけで短命返上はできないかもしれないっていうことです。簡単にいえば、いろんなことが全て負けているっていうことなんです。すいません、不景気なこと言つて。だけど事実ですから。

それでよく聞かれるんですよ。中路先生、何で長野にことごとく負けるんだって・・。これは本当のところは私もわからないんです。でもそれはおそらく、幹が負けているんじゃないんですかね。もうちよつとわかりやすくいえば、幹と根が負けているから、そこから出る葉っぱと枝も全部負けるんじゃないのかということ。だから、葉っぱの負けたか勝ったかじゃなくて、幹を直さないとだめなんじゃないですかってことです。

それはつまり、一番大切な県民一人ひとりの健康に対する知識というか、意識的なものがちよつと低いからだと思ふんですよ。これを言うとまた怒られるんですけど。「中路先生、長野はそれならば、意識が高くて、知識も豊富だつていふんですか。誰がどうやつて調べてわかつたんですか？」つて。調べた人は残念ながらいません。でも、喫煙率を見れば大体わかります。タバコつてやつぱりよくないじゃないですか。それがどの程度理解されているかつていう問題です。あれだけ体に良くないタバコを吸っている県と吸わない県は何が違うのか。それは意識とか知識とかの差だろうと、私は思います。

タバコが体に悪いつていふのは誰でもわかっていることだと思ふんですけど、問題はどのくらい悪いかということを知るといふことがすごく大切なんです。私はいつも二つのことを説明します。

一つは、タバコの煙の入る順番にがんがでやすいんですよと。だから口とか喉のがんは、タバコを飲まないとまずあまりならないがんです。肺がんは口とか喉よりも、関係が少し薄いんです。薄いと言つても、毎日二十本飲めば五倍以上肺がんになりやすくなります。口や喉は十倍以上です。だから最近五十歳代の芸能人を襲つて

いる、口や喉のがんのほとんどの原因はタバコです。

二つ目は、タバコのがんは治りづらいつていふことです。その最たるものが肺がんです。今日日本で一番多いがんで、亡くなつていふがんは肺がんなんです。何で亡くなつていふのかというと、あまり治療成績が芳しくないからです。皆さんは、五年生存率というのをご存じでしょうか。五年経つたら何パーセント生き残つていふかの割合です。高ければいいんです。肺がんはまだ四割ないんですよ、三分の一くらいです。五年後には三分の二の方が命を取られてしまつていふ。これが肺がんです。ところが、皆さんよくご存じの大腸がんとか、胃がんは三分の二以上生きます。この違い。だから、タバコが原因のがんは厄介なわけです。ただ何となく悪いと思つていふことと、科学的なデータを知つてやつぱり悪いんだと思ふのは全然意味が違います。それはやつぱり私の言う、健康教養じゃないだろうかと思ふわけです。

さてこの知識、健康教養を身に付けるにはどうすればいいかということ、日々考えています。ここで皆さんにお話したいことがあります。つまり、健康の勉強つて勉強じゃないんですよ、楽しみですと。面白いんです。だつて自分のことですから。難しく話すから面白くない

んであって、楽しく話せばいくらでも覚えてためになるし面白いんです。

さて、今日はせっかく来ましたので、皆さんに健康教養のことをお話ししたいんです。

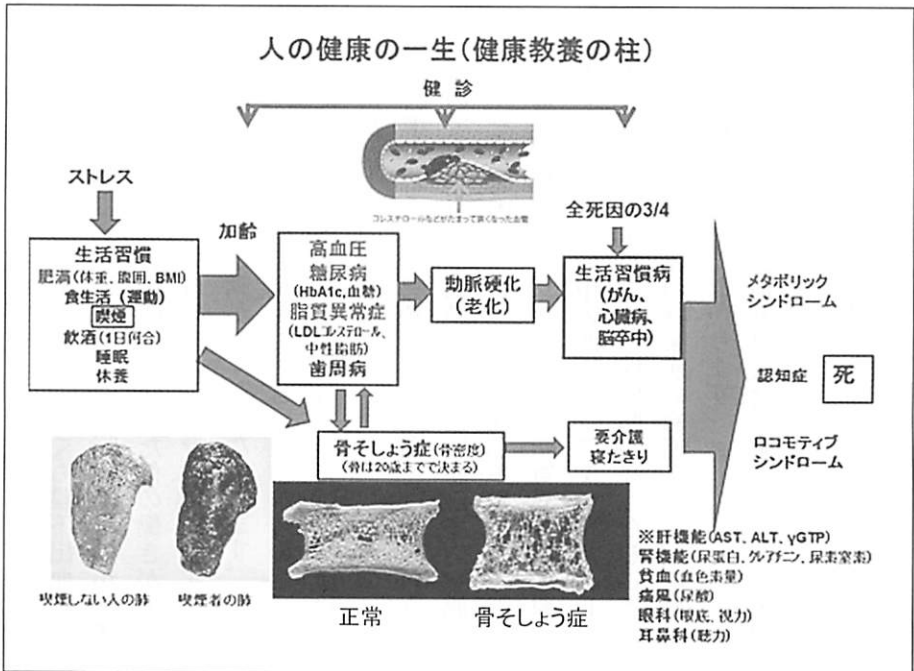
下の絵は、私が健康教養のことをいつも教える時に使っているものです。折角ですから、皆さん、今日覚えていってください。

まず「健康物語」の全体像をご覧ください。左が若い時で、右に行くほど年齢を重ねるといいう流れになっています。

一番右に生活習慣病と書かれています。最初にこの生活習慣病について説明します。

生活習慣病には三つの代表的な病気があります。それは、がん、心臓病（主に心筋梗塞）、そして脳卒中です。今、日本では毎年一二〇〇〜一三〇万の人が亡くなっていますが、生活習慣病で命を落とす人の割合が全体のなんと3/4を占めます。ですから、我々が健康長寿を目指すためには、何よりもこの生活習慣病対策が重要になってくるわけです。

それでは、この三大生活習慣病について説明します。まずは、人間の体はなんと六十兆個の細胞で成



り立っていますが、この細胞の一つが突然変異を起こしてがん細胞になります。その一個のがん細胞がどんどん増えていって大きくなり、最終的には人の命を奪ってしまいます。現在、日本ではがんによる死亡数が一番多く、全体の約1/3にもおぼります。また、男性の二人に一人、女性の三人に一人が一生のうちにかんにかかっています。がんはほとんどの臓器に発生し、死亡率の順位は、男性で一番多いのは肺がんです。続いて大腸がん、胃がんの順です。女性で一番多いがんは大腸がんで、肺がん、胃がんと続きます。

次が心臓病です。心臓病でもっとも重要なものが心筋梗塞という病気です。心臓の表面を走っている動脈（これを冠動脈と言います）が動脈硬化を起こし、最終的にふさがつてしまい、血流が途絶えてしまいます。そうすると、その先の心臓の筋肉が死んでしまいます。ダメージを受けた筋肉の場所が悪かったり、範囲が大きいと心臓が止まってしまいます。ほとんどの場合、急激な胸痛みで起こります。一刻を争う重大な病気です。

最後に脳卒中です。脳の血管が破れて出血することを脳出血、詰まることを脳梗塞と言います。梗塞とは、つままる」という意味です。出血には二種類あります。脳の

中（内部ですね）の血管が破れる脳内出血と、脳の表面の血管が破れるくも膜下出血です。くも膜下出血は動脈瘤の破裂が原因です。脳卒中では、脳そのものがダメージを受けるため、その場所に関係した体の働きが失われます。もつともよく見られるのが半身のマヒです。たとえば、右か左の手足が動かなくなったりします。

さて、生活習慣病ですから、若いときからの生活習慣が大切になってきます。川の流れでいえば、健康物語の図の一番左、上流の部分です。

生活習慣と言えば、肥満です。肥満とはどういう状態を指すのでしょうか。肥満とは体に脂肪が多い状態を言います。その原因は、食べ過ぎと運動不足です。肥満は万病の基と言われます。たとえば、脂質異常症の原因になります。これは血の中の悪いコレステロール（LDLコレステロールですね）や中性脂肪が高くなることです。また、みなさんご存知の糖尿病の原因となり、最終的に生活習慣病の発生につながります。

肥満の原因になる運動不足と食べ過ぎについて説明します。

運動にはさまざまな効用があります。

①まず、エネルギーを消費して体重を減らすことに役

立ちます。

② 骨を強くして骨粗しょう症を予防します。

③ 筋肉、とくに下半身の筋肉を強くして寝たきり予防や介護予防に役立ちます。

④ 心臓や肺の働きを強くして持久力をつけるのに役立ちます。

⑤ 心の健康や人とのコミュニケーションを良くします。ふつう運動は人間同士が相集って行うわけですから、当然メンタルやコミュニケーションに良い影響を与えるわけです。

⑥ 最後に、意外に思われるかもしれませんが、腰痛や肩こりにも運動はよく効きます。シップでは治らなかつた腰の痛みや肩こりが運動をすることで劇的に良くなつてしまうこともあります。

次に食事です。食事の基本は五大栄養素をまんべんなくとることです。五大栄養素とは、炭水化物(糖質とも言います)、脂肪(脂質とも言います)、タンパク質、ビタミン、ミネラルです。またもう一つ大切なことは食塩を取り過ぎないことです。食塩の取り過ぎが血圧を高くすることは今や世界の常識です。二〇一二年時点での日本人の食塩摂取は、男性で十一・三グラム、女性で九・

六グラムです。国ではこれを男性八グラム、女性七グラム程度にしたいと呼びかけています。

次は喫煙です。喫煙もさまざまの健康被害をもたらしますが、とくに発がんとか動脈硬化を進めたりします。がんでは、タバコの煙が入る順番の臓器にがんが発生しやすくなります。口腔がん、喉頭がん、肺がんなどです。日本人に一番多い肺がんの五年生存率は約三十%というたちの悪いがんです。また、手足とくに下肢に行く大きな血管が動脈硬化を起こして詰まってしまう病気(閉塞性動脈硬化症)という病気の原因にもなります。ひどい場合には足の切断に至ることもあります。

それから飲酒です。お酒をたくさん飲むことが生活習慣病につながることもわかっています。お酒を飲みすぎると肝臓が悪くなることはもちろんですが、食道がんのリスクにもなります。ただし、飲酒と言えばアルコール依存症が問題で、自殺や事故、暴力につながることも多く、生活習慣病と同様に社会問題としても注目されています。

このような、肥満、喫煙、飲酒を三大生活習慣と言い、これらの生活習慣が悪いと、この健康物語での右への流れが速くなつてしまいます。つまり、生活習慣がすべて

の流れの源流になるわけです。生活習慣を良くすることで健康長寿のためには、まずは一番大切になるわけです。

ただし、タバコを吸ったからと言ってすぐがんになるわけではありませんね。三十〜四十年と時間があつて病気が出てくるわけです。つまり“加齢”が大きな要素になります。

もう一度言います。人間は長年の生活習慣が積み重なつて、年を加えて、そして生活習慣病になつて日本人の3/4は命をとられて、亡くなる。これが健康物語の大きな流れです。

さて、生活習慣から始まつて、そして年を重ね、最終的には生活習慣病になるわけですが、今度はその中間とどうか、生活習慣病になるまでの途中のことについてお話しします。

まず動脈硬化です。人の体には心臓があつてそこから多くの血管が手足に向かつて走り、体全体に栄養と酸素を行き渡らせています。この血管を動脈といいます。大事な言葉ですからぜひ覚えてください。

この動脈が加齢とともに錆び付いてきて、細く、壁が厚くそしてもろくなります。これを動脈硬化といいます。そうすると、十分に血液が体に行き渡らなくなり、十分な酸素や栄養が行きわたらなくなり、体は老化します。

老化した体には病気が発生します。その代表格が三大生活習慣病なのです。

動脈硬化が速く進む人と、ゆっくり進む人がいます。同じ暦の年齢は七十歳でもそこで差がついてしまいます。それが寿命の差です。

このように、健康長寿のキーワードは動脈硬化ということが言えます。しかし、動脈硬化を確実に測定するとは現時点では意外に難しいのが現状です。

そこでその代用として血圧を測定するわけです。

拳を作つて自分の手の甲の血管を見てください。その血管は静脈と言つて手足から心臓に向かつて血液が流れています。それでは動脈とはどこを走っているのでしょうか。みなさんは親指側の手首で脈を触れたことがあるでしょうか？ その脈が触れる血管が動脈です。動脈の中の血液は心臓から手足に向かつて流れています。

動脈の中には酸素を含んだ真っ赤な血液が流れています。しかも間違つて切つてしまつたらすごい勢いで血液が吹き出すぐらいに血液がパンパンに詰まつた状態で流れています。ある人は非常にパンパンな人がいます。そのパンパンの度合い、パンパン度が血圧です。つまり、難しく言えば血圧とは動脈の中の血液が内側から動脈の

壁を押す力なのです。

動脈硬化が進むと血圧が高くなります。したがって、血圧の値を動脈硬化の目安とするわけです。しかし、血圧測定の間は、緊張したり体を動かすことによつて簡単に上がつてしまうことです。私たちが病院で測る血圧が家庭での血圧より高くなるのはこのためです。したがって、最近では、病院での血圧値より、家庭での起床時の血圧値を重視するようになってきました。

血圧や高血圧という言葉ほど日本人が知っている言葉はありません。血圧計も普及していません。したがって、その意味では、健康、長生きにとつて血圧が一番大切なキーワードであるとさえ言えるでしょう。

ここでとても大切なことがあります。それは高血圧の怖さをよく理解するということです。高血圧と言う言葉は知っていてもその怖さについて知っている人は意外に少ないですから。

高血圧を放つておくと、健康には非常に悪いです。以下に四つの悪い点を説明します。

①血圧では動脈のパンパン度が増すわけですから、その分破れやすくなります。それで脳出血などが起きます。脳の動脈は破れやすくなっています。

②心臓への負担が大きく、心臓が大きく肥大します。

「大きいことはいいことだ」と言つたりしますが、心臓の場合には違います。心臓が肥大するということは心臓のポンプとしての働きが弱くなるということで、最終的には(うっ血性)心不全という状態になります。そうすると、血流が悪くなり、尿量が減り、顔や足がむくみ、浮腫というものです。さらに重症になると胸に水が溜まり、呼吸が苦しくなります。

③腎臓にも負担がかかります。そうすると腎臓の働きが次第に悪くなり、尿に蛋白が出ます。これが進むと透析にまで行くわけです。通常透析は、一回につき四時間かけて、週に三回通わなくてはいけませんし、透析には一人当たり年間五百〜六百万円、日本全体で二兆円もお金がかかります。

④そして最後ですが、高血圧が続くと血管つまり動脈にも負担がかかり、傷つきやすくなります。ヒビが入りやすいということです。傷の部分にはコレステロールなどがたまり動脈硬化がさらに進行します。動脈硬化が進むとまた血圧が高くなるという悪循環に陥つてしまうのです。

このように、血圧が高いだけで体に負担がかかる、言

い換えれば体がむしばまれていくことになります。

高血圧のもうひとつの怖さは症状が少ないことです。

ですから高血圧の怖さを知らずに体がむしばまれていくことになります。つまり言い換えれば、高血圧は症状が少ないからこそそのままにしておくことの怖さを知るべきなのです。

そして糖尿病です。糖尿病は動脈硬化を促進し、生活習慣病を高い確率で引き起こします。糖尿病は『国民病』と言われます。国民病とは、たくさんの人がその病気にかかり、そしてたくさんの人々の命が奪われている病気という意味です。糖尿病は全体の3/4の命を奪う生活習慣病をひき起こす万病の基ですから当然国民病だと言えます。

糖尿病のもうひとつの怖さは症状がほとんどないことです。症状がなければ対策が取りにくいのです。ですから、糖尿病の怖さを、症状がない段階でよく理解することがとても大切なのです。

以上の全体の流れはメタボリックシンドロームの考え方ということができます。メタボリックシンドロームというのは、肥満などの悪い生活習慣があると、コレステロールなどが高くなり、血圧が高くなり、血糖が高くな

り、その結果動脈硬化が進んで生活習慣病になってしまふという流れの考え方です。

さて、現代は男女とも長寿社会を迎えました。今は、男性の平均寿命が八十歳、女性では八十七歳の時代になりました。これからこの寿命はまだまだ延びていくでしょう。その結果、これまでのテーマであった「いかに長生きするか」から「いかに健やかに老いるか」に私たちのテーマが変わってきました。つまり健康寿命の延伸です。

健康長寿を言い換えれば、寝たきりにならないこと、介護状態にならないこと、骨折しないこと、認知症にならないこと、自立できること、などが挙げられます。

そこで屋台骨の話です。人間の体の屋台骨とは、骨、筋肉そして関節です。これがポロポロになった状態を口コモティブシンドロームと言います。当然寝たきり、要介護につながっていくわけです。認知症への近道にもなります。

屋台骨の中心は骨です。少年期、大体十八歳くらいまでに最大となった骨の太さと硬さは成人すると食いつぶしていくことになります。したがって年齢を重ねるたびに骨密度は低下していきます。しかも女性は閉経すると

女性ホルモンが急激に低下して骨密度が急激に低下します。長生きの女性はその後三十〜四十年も生きるわけですから、健やかな老後のためには加齢による骨密度低下をできるだけ抑えなくてはなりません。そのためには何をすればいいのでしょうか。それは、まずは、カルシウム、ビタミンDなどを十分に取ることです。ビタミンDは青魚・きのこに多く含まれます。次に、お酒タバコを控えること、そして運動です。なかでも運動はとても大切です。骨は物理的な刺激を常に与えておかないと強くなりません。宇宙飛行士が宇宙で無重力状態で数か月過ごすとは骨が急速に弱くなることは知られています。地球の重力の動き、つまり物理的の刺激がいかに大切かと言うことです。骨に対する運動の大切さがよく理解できます。その対策として、今では宇宙飛行士は毎日二時間程度の運動をしています。

以上の流れはロコモティブシンドロームの考え方で、ロコモティブシンドロームとは、骨や関節や筋肉の衰えで体の動きが悪くなる状態をいいます。当然寝たきり、要介護につながっていくわけです。

以上、人の健康の一生（健康物語）について説明しました。少しは理解していただけただけでしょうか。私たちは

健康教養として健康物語の全体像とこの二つの流れを頭の中に入れておく必要があります。

次に、全体像を理解しながらここに書かれてある十五くらいのキーワードを一つひとつ理解する必要があります。それを理解した時、そしてこの全体像を理解した時に健康博士となることができます。

（次号につづく）

中路 重之（なかじ しげゆき）

長崎県出身

弘前大学大学院医学研究科社会医学講座 教授

前 弘前大学医学部 医学部長

※講演内容は、誌面の都合上、一部割愛させていただいております。（編集局）

桜の根の治療を終えて

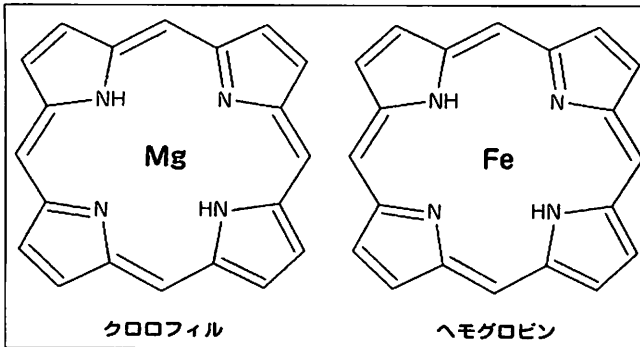
本年度の十一月四く五日に「桜の勉強会」と「桜の根の治療」を行いました。新城中学校や職員、入所者、近隣住民多数参加して下さり、とても感謝しております。

十一月四日の勉強会の内容ですが全部紹介することは難しいので冒頭の部分を少しだけご紹介したく思います。では発表順毎に

一、「植物はどうして動かないのでしょうか？」

植物は太陽の光・水・二酸化炭素・土があれば自分で食べ物を作ることができます。なので動物のように飲み物や食べ物を探し回る必要がありません。

植物のように生きる為に必要な物質をすべて自分でつくる生物を「独立栄養生物」と言い逆に人間のように自分の体で栄養分を作り出せない生き物を「従属栄養生物」と言います。



樹木医
逢坂 淳

二、「動物の体にある血液と植物の体にある葉緑素に違いはあるか」
実は化学式ではそんなに違いはありません。

植物の緑の元となる「クロロフィル」は光を利用する為、Mg (マグネシウム) が真ん中にあります。いっぽう人間の血液の赤の元となる「ヘモグロビン」は体に酸素を送る為、Fe (鉄) が真ん

中にあります。ほとんどそっくりなのが解ります。

す。

三、実は植物にだって血液型があります。

○型 大根、キャベツ、ごぼう、^{アノキ}榎、ブドウ、いちじ、なし

A B型 そば、スモモ、バラなど

A型 アオキ、キブシ、ヒサカキなど

B型 セロリ、アセビ、イヌツゲ、ツルマサキ

など植物全部の血液型が確認されたわけでは無く、わかっているのは全体の一割程度です。ちなみにカエデは赤く紅葉するのは○型で黄色に紅葉するのはA B型です。なのでカエデ公園のカエデは赤く紅葉するので○型と言えると思えます。

四、「さくら」の名前の由来」

諸説ありますが昔からの言い伝えで 山の神様が春になると山を下り、田植えが終わるまで桜の上に滞在していたと言われております。山の神様が里に降りることを「さおり」、山に帰ることを「さのぼり」と言い「さくら」の「さ」は神様と言う意味で「くら」は神様のお休みになられる場所を意味しま

五、「花見文化の起源」

桜の花見は元々は神事でお祭りでした。桜の木は「山の神様が里に降りてくるとき」の目印になる木です。ですから始まる苦しい田植え作業を無事に終われるように神様をお願いする行事が花見の起源と言われております。

お花見に付き物の「お酒」は、本来は神様に御神酒として供えたお下がりを皆さんで頂くといい意味があります。

以上、上記のことを述べたあと「簡単な治療方法と注意点」「松丘保養園の歴史と樹木」を関連づけて説明しました。

入所者の方、新城中学校及び職員の方々お忙しい所遅くまで聴講して頂きありがとうございます。翌日の樹木治療も実に沢山の方々に参加して頂き感謝に堪えません。

以前国会図書館にて過去に行われた松丘保養園の将来構想のシンポジウム「地域での共生を考える」を拝

見しました。

前福西園長が下記のことをしたためていたことを覚えております。

「ハンセン病療養所の将来構想には主として三つの要素があります。

一つめは、最後の一人まで入所者の人生を保証する為の療養所の運営。この場合の療養所というのは国立であるということ。

二つめは、偏見や差別のない地域で入所者が一般の人々と共生できるようにするための啓発活動。

三つめは、入所者がすべていなくなったあとの療養所の跡利用。」

と、現在私が松丘保養園にご協力させて頂いている部分は二つめの部分の啓発活動だと思えます。

松丘保養園の入所者の人権を少しでも回復できるようにお手伝いできる方法としてやるべきことは、この施設であったことを少しでも多くの方に知ってもらふことだと思えます。しかしながら自分以外の苦しみはなかなかすんなりとは理解しがたいものがあります。

今私たちができることは入所者の方々と寄り添い共に感じる事がより重要なのではと感じ始めておりま

す。

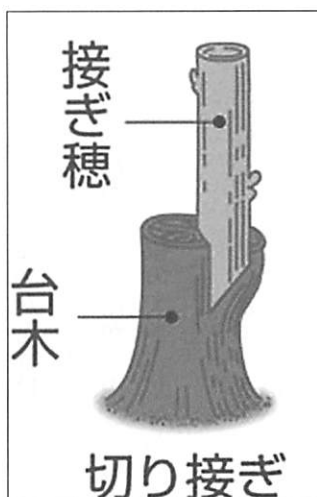
緑化活動は、地域の方々と入所者の方々との共生していく一つの手段なのですが植樹活動や治療に参加される多くの方を見て、その重要性をあらためて感じただいでございます。

しかしながら私の啓発活動は松丘保養園を知ってもらいきっかけに過ぎず今後もっと深く知る機会が深まれば良いと思えます。

本年度作成した「樹木マップ 散策コース」は代表的な樹木を歴史と関連づけて紹介しております。多くの樹木が皇室との関連がありますが、これを配した理由は将来構想の三つめ部分の療養所の跡利用にあたります。この地が今後もハンセン病施設の啓発活動の場として長く存続できることと、又他に汚されることがないことを願い調査し配置しました。

本年度は春の「まなびの杜」の植樹祭、青森ロータリークラブの植樹祭、納骨堂前の花の植栽となんとか終えることが出来て正直ほつとしております。ただ一つ「まなびの杜」にて植栽した八重桜百本のうち約四割が枯れてしまったことは大変残念でありました。一昨年より植樹活動を行っておりますが、一昨年もまた

苗木の活着率が思わしくなく、これはどうしたものかと悩んでおりました。



られてくるのですが、台木部分は「オオシマザクラ」や「エドヒガン」などの比較的南方系の樹種であり細根は殆どついておりません。

その為、松丘保養園の環境に慣れさせる為にも一定の養生期間が必要なものと思われました。

昨年の冬、実験的に個人的に苗木を取り寄せ仮の畑に植え付けた桜の苗木三十本は順調に生育し冬季間に根も発達させ今年立派に活着しました。

樹木は冬でも根は活動しております。松丘の土に慣

植樹祭で

使われた苗木は茨城県結城市で生産されたものです。

上図のように接ぎ木苗として送

れさせ細根を出すには良い期間だと思っております。今年には秋に茨城の結城農場より桜の苗木を一二〇本取り寄せました。

園内の畑で冬越しをさせ根を出させるつもりです。天候にも左右されることですが、なんとか成功してもらいたいものです。

最後に松桜会緑化委員として皆様にお礼申し上げます。

今年、松桜会の活動に賛同して頂き実に沢山の会員を得ることが出来感謝に堪えません。中でもハンセン病と松丘保養園のことを理解してくださり、はるばる兵庫県から応援して下さい下さった伊藤さん、落語家の福丸さんには感謝しております。又、青森ロータリークラブの皆様、日本花の会青森県支部の皆様ありがとうございました。

今後とも松丘保養園を知るきっかけとして緑化活動に協力していく所存です。皆様のご協力どうぞよろしくお願いいたします。

新城中学校からの感想文

十一月四日の「根の治療講演」には14名、五日の治療体験には22名の新城中学生が森昌江先生と共に参加されました。後日4名の中学生より感想文が届きましたので紹介いたします。

桜の木の治療体験を終えて

新城中学校二年 中村 美咲

桜の木の治療体験は、雨の中で作業、たつたけれど、いろんなことを学ぶことができてとても良かったと思います。

私たちが作業を始めたときは、ちょうど雨が降り始めたときでした。はじめは雨の中の作業か・・と少し嫌になりながらでしたが、少しずつ土を掘り進めていくうちに、桜の根の大きさが分かってきて面白かったです。

大きい根が見えたときは、さすがに百年も咲いている桜だなあと思いました。そのあとは、小さい根を傷つけないように慎重に作業しました。休けいをはさんで、その後は少しずつ雨もやんで、みんな楽しく作業し、肥料を入れて、午前の作業は終了しました。

今回の桜

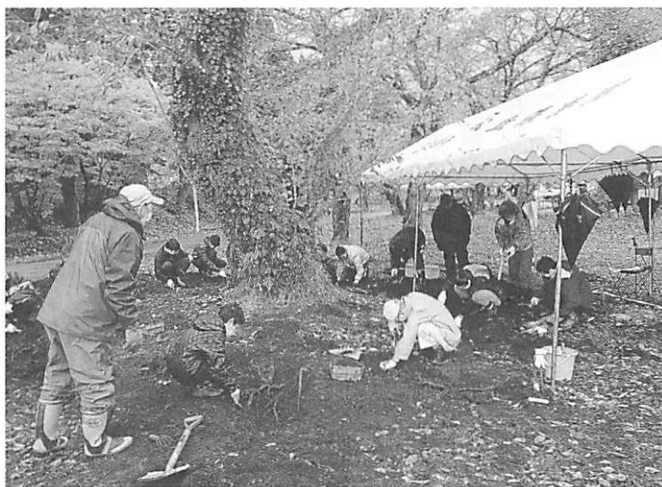
の治療体験を通して学んだことがあります。

それは、百年桜は松丘保養園の入所者のみなさんと地域のみなさんの手によって大切に守られてきたのだなという事です。

もしも、桜を守る人がいなくなったら、あの桜は今まで咲き続けることはできなかつたと思います。あの桜を植えた入所者のみなさんから百年間大切に守られているということはとてもすごいと思います。私は、この活動のときに初めて保養園の中に入りました。そし



樹木医逢坂氏（中央）より作業の説明



百年桜の根の治療中

悲しみにも負けずにあの桜は咲いていたのだと思います。そんな桜を守るために活動できたことはとても誇りに思います。私は普段、通学するとき、桜の木を見る機会は無いです。十年後、二十年後の保養園の前を通って通学する人たちが春に桜が咲いているのを見

て、かつてはハンセン病の人は、他の人につすという理由で差別されていたということも知り、とても悲しいなと思います。しかし、そのられるように活動に参加したいです。今回の活動を通して、松丘保養園の歴史と百年間咲き続けた桜について知ることが出来ました。これからも百年桜には咲き続けていって欲しいです。

治療体験を通して感じたこと

新城中学校二年 阿部 千草

百年桜の木の根の治療体験をしました。百年も生きている桜を見たいと思ったし、その桜を支え続けてきた根はどういうものなのだろうと思ったからです。

実際に体験して印象に残ったことは三つあります。一つめは、木の根の太きです。幹に近いところから掘っていったのですが、すごくがっしりした根がいくつもびびていて、そのうえ、とても複雑に絡み合っていてびびくりしました。何十年もかけて桜の木が地上だけではなく地下でも成長してきたのだと思いました。また、幹から少し離れたところにも根がのびていて、深く掘っても終わりがなかなか見えなくて、百年生きている力はとても大きいと感じました。

二つめは、治療の仕方です。掘るときには根を傷つ

けないように優しく掘っていくのが大変でした。根か

もしれないと思つていたのが普通の草や土のかたまり、石だつたり、よく分からぬ形のものが根の続きだつたりして、お宝探しをしているようで楽しかつたです。掘つた土に炭を混ぜて埋め戻すときは、とても頑張つて掘つたところが、たちまち見えなくなつて、ちよつと名残惜しかつたですが、友達と協力して埋めました。木の根に栄養が渡つて桜の木がもつと生きて欲しいと思ひました。

三つめは、桜の木の歴史です。保養園の方が、この桜の木は、保養園に入所された方が植えたと話されました。外部からの目隠しのためだつたそうですが、春の満開の桜はたくさんの人を楽しませたのではないかと思ひます。登下校中に春の保養園の桜を見るたびにいいなあ、と感じています。

今回の治療体験でたくさんの方を感じ知りました。そして、治療はとても楽しかつたです。桜には、これからの春も、新城に住む人々を楽しませて欲しいと思ひます。

体験を通して得た事

新城中学校二年 遠藤 沙良

私は、木の根を掘り起こし、治療するという事が初めての体験だつたので、とても楽しみでもありました。また、ただの木ではなく百年桜という聞いた事がない長生の桜だつたので、とても興味深かつたです。

松丘保養園自体入つた事がない私には、目に見える物すべてが新鮮でした。百年桜の他にも、きれいな紅葉だつたり、大きな木があつたりと、見ていて楽しかつたです。

根を掘り起こす作業では、まずお手本を見た時は、根を折らないように掘っていけばいいのだなと簡単そうだと思つていました。しかし、実際に作業してみると、最初は、土がうまく掘れず、隣りで作業している地域の方がさくさくと奥の方まで掘つていて、さすがだと思ひます。ようやく慣れてきた頃になると、少しずつ根が見え始め、今までは、どんどん掘ろうと強めでしたが、根を折らないように丁寧に作業するように力を抑えつつ掘り進めました。そして、驚いたのが、大きな桜の木なのに、とても細かい根がたくさんあつた事です。思わぬところから根が出てきたり、いつま



作業の途中でひと休み

でたつても終わりが見えな根があつたりしました。ほとんど座りっぱなしの作業で足の痛みはあつたけれども、あまり時間が長いと感じなかつたので、

れと気さくに笑顔で話しかけて下さる方や、つるはしで、掘り起こすのを手伝って下さる方がいました。普段交流がない分、新鮮でした。

私達が治療した桜がまた大きく育つて次の世代の人たちに受け継ぐ事が出来ればいいなと思つています。

百年桜の根治療体験を通して

新城中学校二年 山崎 達也

十一月五日に百年桜の根治療体験をしました。この日は、あいにくの雨の中での作業となりました。私は最初、百年桜の根の治療とはどのような事をするのか分かりませんでした。その作業の前日、樹木医の逢坂さんの説明を聞いて、樹木は一見自らの根だけで自分の樹体を維持しているように思われますが、実際にはきのこの力無しでは生きて行けない事や、桜の治療は土壌生物がカギとなる事、また樹木を元気にするには根を元気にすることが大事だという事が分かりました。

実際の根の治療はまず、土を二十から三十センチメートルの深さに掘りました。最初、なかなか根が出

は、さまざまな形の根があり、おもしろかつたからだと思います。

地域の方との交流もこのイベントの一つの楽しみでした。「足痛い」と弱音を吐くと若いものだから頑張

てこなくて大変でした。掘る時、力強く掘って根に当たると根が傷ついてしまうので、根を傷つけないように、慎重に優しく掘りました。二時間程、ひたすら掘り続けました。作業はほとんどしゃがんで行ったため、とても足腰が痛くなりました。土を掘り終えた後、掘った土にバーク堆肥や粉炭、肥料を混ぜて、掘ったところに戻しました。これで根の治療は終わりました。このような地道な作業があるからこそ、この百年桜はしっかりと生きているのだと思います。地域の方々の百年桜を守ろうという気持ちが私はとてもいいなと思いました。作業をしているときの地域の方々のふれあいもとても楽しかったです。

私はこの体験を通して、大切なものを守ろうとする気持ちや、守るために一生懸命作業に取り組むことの大切さを学びました。このような貴重な体験はなかなか機会が無いと思うので、今回この体験に参加する事が出来て、とてもうれしく思いました。

この地域の方々が守ってきた百年桜が、来年、そして再来年、この先ずっと春になったら鮮やかで美しい淡いピンク色の花をたくさん咲かせ、地域の人々の心を和ませてくれる事を願っています。



おつかれさまでした!!来年の春を楽しみに!

旧友との旅

木村龍一

「秋深く 錦燃えてる いろは坂」

四回目となる友人との三人旅は、二泊三日の予定で日光周辺の紅葉・世界遺産を巡り、食と温泉を楽しむこととなりました。友人とは宇都宮で合流し、日光駅からはレンタカーでとの私達の希望と、旅行業者がリストアップしたプランを組んで、天候で変更出来るようにしておりました。幸い雨と遭遇することもなく、素晴らしい絶景との対面でした。

十四時奥日光・中禅寺湖にある宿泊地へ向け出発です。駅の近くに東照宮があるようなので立ち寄ることにしました。世界遺産として、あまりにも名の知られたポイントです。休日ではないものの車の列が続いており、狭い道路に大型バスがひしめきあっています。

観光地は距離、混雑状況も重大になりますので、流れについて行くしかありません。駐車場から本殿まではか

なりの距離があるようです。巨大杉の並木と由緒ありそうな建物をポツリポツリと左右に見ながら深へ深へと進みます。時折急な石段にも三人の足はまだまだ調子は落ちません。

大勢の方のいる場所に出ました。ここからは有料なのでチケットを買う列に並びます。外国の団体さんが目立ちます。ここまで来たら、三猿を見ようと意見が一致したものの只今修理中でレプリカで納得するしかありませんでした。家康の墓所や着座、泣き龍のポイントには人の列が長く、時間が足らないようなので、金ピカの建物と五重の塔をバックにしての写真、記念のストラップ、お守りを買う早々に引き上げることにしました。カーナビはいろは坂へと指示しています。

紅葉情報によると、やや遅れているとのことですが、急カーブが続くポイントにさしかかると景色が一変しま

した。二車線になって一方通行の登り専用をゆつくりとカーブを切りながら景色をチラチラしつつ頂上の明智平へと到着しました。展望所であり、ロープウェイで更の上からの展望からは華嚴の滝を見ることが出来るという、もう行くしかないでしょう。

三六〇度の大パノラマは天気にも恵まれた至福の時を楽しませていただきました。湖からやや離れたホテルに到着しました。部屋の作りは和風で掘りこたつもあり旅館のような雰囲気にも安らぐようです。天然乳白色の掛け流しの温泉にも大満足です。

業者の方が多少高めの料金と言ったのは、食事もコースになっており、板長のこだわりがあったようです。どれもこれも味見するほどに酒の量もついつい増えてしまいました。女房は風呂での会話から人気度の高い宿であること、周辺の見所をリサーチして来たようで明日の参考に取り入れるそうです。泉質の異なるお湯にゆつくり浸り温まり一日目は終了となりました。

「水面に黄 気配の岸部 染まりつつ」

朝食もお膳が用意してあるテーブルに案内してもらい全部腹に収めてしまうほど大満足のスタートとなりました

た。龍頭の滝へまず向かうこととなりました。早朝ながらすぐにバスや乗用車が来ています。華嚴の滝よりもうごいと言われるだけのことはあるようです。二〇メートルから落ちる二本の滝の水量の凄いこと、駐車場からも近く、建物の中から座って見学でき、食べ物や土産品も豊富に揃っています。ストラップと写真を土産として次のステージへ。今日のメインは鬼怒川で宿泊。その周辺三方所をリストアップしています。約一時間の距離が気にかかって華嚴はバスと言うと無言となり、イヤな空気がです。運転手の権限は強いのです。

一時間ほどで目指す日光猿軍団のショーの施設には十時少し前に着きました。第一回目が始まる直前でした。前座の子猿も一年以上も根気よく訓練してデビューするといえます。4本足歩行を二本足で歩くにも向き不向きがあるとのこと。3対3のサッカーも笑いを誘うユーモラスに拍手です。教室の授業風景は、テレビでも見たこととありますが、六匹の個性を引き出す演出に感心するしかありません。九〇分ほどのショー内容に満足しました。日光江戸村への移動は一〇ほど昼食前でした。

ロケの撮影にも使われるほどで、江戸の街並み、商店、見世物と小屋、接待する従業員もバッチリ扮装して

います。お客さんも希望すれば、着付けしてタイムス

リップを味わうこともできるとのこと、腹の出た外国のオッサンが町娘の姿で外股で歩いていました。何でも有りと言うことなのでしょう。私達は蕎麦屋さんで腹ごしらえ、代金はしつかり八百円請求されました。

忍者のショーがあるようなので、見ることにしました。唯々動きと照明の奇抜さ、黒装束の一团がアクロバットよろしく二階よりロープで下るなど舞台を縦横に動く早さは新体操のショーのようでした。

百人ほど入る客席は満席で、いつまでも拍手は鳴り止みませんでした。本日の最後は東部ワールドスクエアへと移動する。鬼怒川温泉郷周辺に集中していますので、まだ二時間以上の内容が残っています。日本全国の有名な建物や庭園を二十五分の一に縮尺され、世界の主な建造物遺跡が広大な敷地に配置され、順路をたどると世界一周できる工夫がしてありました。人・車・動物・樹木の一本一本まで精工に出来ており、次々とシャッターを押し続けるので電池切れとなるほどでした。

どのテーマパークも手帳を提示することで、割引の恩恵があり得た気分も加わり、三人共満足でしたが、寒さも強くなったので、目指すホテルへ向うこととなり

ました。

三棟並んでいる、その一つ十階へと案内されました。紅葉にはやや間がある風景ですが、シーズンともなると絶景となることでしょう。館内は三棟がつながっておりませんが、古い建物なので迷路のようになっているようです。風呂も数カ所、食事処も同じような説明でした。お風呂の泉質、食事も会席、個室、バイキングと選べるようです。バイキングを選んだ私達は七十種類から選べるので満足の一言でした。

日光は「金谷ホテル」が有名であり、老舗、独立したオーナーが独自の工夫で、世界から訪れるお客さんに喜んでいただけるため三棟に別れた建物となったようです。今回も旅行者者にお願したお宿でしたが、担当する方は私達の条件は細かく打ち合わせしなくとも、プランは感心するばかりの配慮がありました。

「しぶぎ飛ぶ ライン下りと 名調子」

三日目は鬼怒川ライン下りがメインとなります。九時に予約していますので、やや慌ただしい準備で出発地点へと向かいます。十五名ほどが一艘分の人数のようです。日本人は五名、外国の団体さんでした。奇岩怪石と

急流、八汐つつじや紅葉は数千年の歴史があるようで、時折水しぶきに襲われるので、悲鳴の中、四十分ほどのスリルは終了しました。終着に近づくとダム貯水になつてゐるようで、モーターボートに引かれての到着でした。船は陸揚げされ発地へ陸送となるようです。

この周辺は龍王峽とロープウエーのポイントがあるものの、車を返し日光駅周辺の街歩きに変更、車を返す寸前に船村徹氏の記念館が近くにあるとのことで、時間にも余裕もあることだし、見学することにしました。

道の駅に併設されたミュージアムは昨年オープンしたばかりで白亜の三階建てでした。氏とつながりの深い五人の映像のショーも楽しめます。船村氏の作品のジャケット、数千枚には圧倒されてしまいました。

歌い手とのコラボレーション、一曲DVDも作れるようですが、その勇氣はありませんでした。ゆつくりと食事をして、レンタカーも返し帰路につくだけとなりました。ただ一点、華厳の滝と言われてしまいました。反省材料として次に生かすことにして了解してもらいました。

夫婦での旅も毎年計画していますが、友を交える話題も多くなるし、笑いが増すことは確かなようです。

明年につながるかどうかは別にして健康が許せば、いい

思い出を刻むことが出来るでしょう。今回の旅は実はもう一人の方に声を掛けておりました。私共とは秋田に居る頃より親交もあり、仕事をリタイアしたので、ご苦労さんとの想いと児童寮まで遡れる友人でもあります。連絡はつきましたが、泊まりがけの旅となると家庭の事情は難しいようでした。

社会復帰しておられる方は社会人として自立すること、その方その方の取り巻く環境も違うことなので慎重を期さなければいけません。家庭を持ち心配事も乗り越えて来た裏事情は耐えた時間なのです。

入園者と社会人の二足の草鞋を履いている私はいいポジションにいますので、ほどよいクッションの役割をして参りました。もう一人の方の参加は叶いませんでしたが、次につながることは間違いないでしょう。怪我をしたアクシデント、趣味につながる他園へ訪問したこと、ここには書けない件も含めて、サポートしていただいた支援の輪のご協力の賜でした。それは明年への期待につながるはずです。軸足がブレない計画と活動であるように、自分史の一ページとなりました。

「旅の空 少し余裕の アルコール」

平成二八年一月

コーヒー喫茶おもいで

治療棟看護師 工 藤 まゆみ

思い出しシリーズ第三回目は、三浦喜美子さんの畑で採れたカボチャとトマトを使い、パンプキンパイとトマトゼリーを作りました。トマトゼリーには、飾りにミントの葉をのせました。

十月六日（木）午後一時～四時半 文化センターにて、三浦喜美子さん、浜野あや子さん、坂本栄子さん、田沢忠さんと職員数名でパンプキンパイ八枚とトマトゼリー五十個を作りました。

パンプキンパイは電子レンジで柔らかくしたカボチャを潰し、砂糖、バター、生クリーム、卵を混ぜ、ペーストを作りました。少し溶かした冷凍パイシートの上にペーストをならし、細く切ったパイシートを格子状にのせて、つや出しにハケで卵を塗りました。オーブンで約三十分焼くとあま〜い香りがしてきました。

網戸みたいにすればいいんだべ。


ふーん、こうやって作るんだ。作り方書いたのちょうだいね。



ゼリーは下に牛乳、上はトマトの2層にしました。

初めに牛乳に砂糖、バニラエッセンスを加え、お湯で溶いたゼラチンを混ぜて、カップの半分弱まで注ぎます。冷蔵庫で15分程冷やすと固まります。

次に冷凍保存して解凍したトマトを潰しながら皮や筋を取り除きます。汁がなめらかになったら砂糖、レモン汁を加え、お湯で溶いたゼラチンを混ぜて、固まった牛乳ゼリーの上に注ぎました。ミントの葉をのせ、冷蔵庫で冷やしてできあがり。



浜野さん：「あんた達とこうやって一緒に作ったりするのが楽しい。みんなで作ると昔のこと思い出すし、こうやってやることも良い思い出になる。」

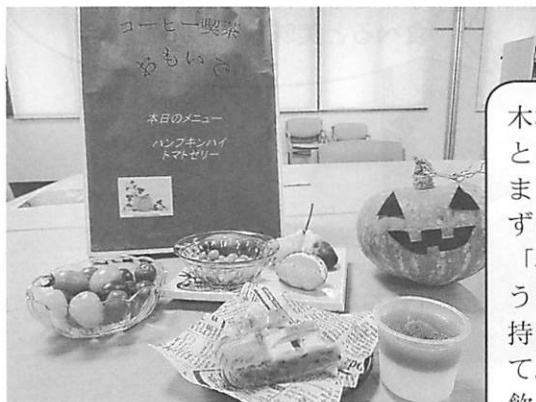
今度はゼリーだよ。2色でキレイだね。おととと、こぼさないようにね。

坂本さんが、かぼちゃのわたはしゃもじ(おたま)で取ると簡単だと教えてくれました。

笑えば、こぼれるよ。



10月7日(金) 8:30多目的和室にてオープン!



木村龍一さんは、食用ほおずきとミニトマトを持ってきてくれました。初めて食べた食用ほおずき美味しかったです。

「おれ、甘いもの食べないから。うちの甘いもの好きだから、持って行って食べさそうと思って。」とゆっくりコーヒーだけ飲んで帰りました。



んー、砂糖
足りなかったな。

坂本さんと浜野さんが8:30からウエイトレスと接待の手伝いをしてくれました。本当に助かりました。

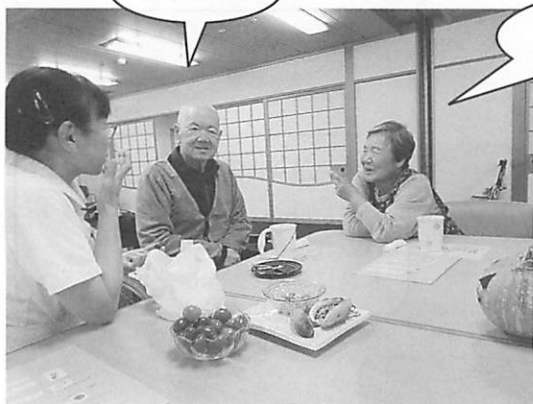
美味しいよ。

昨日「オレ、やることあるんだが?」
と言っていた田沢さんは、かぼちゃを切ったり、
ペーストを混ぜたり、ゼリーの味付けをしたりと
大活躍でした。
お味は、どうですか?



「カボチャは、あまりよろしくないと思ったけど、こうやって食べると美味しいもんだ。」

「箸ねが？箸。めえな。」



ニコニコ

永沢さん、久しぶりだね。

永沢さんはセンターに戻ってから、パンプキンパイを小さく切ってもらい完食したそうです。



これ(パンプキンパイ)、こぼれるな。

たくさんのご来店
ありがとうございました。

人事異動

【採用】

(期間業務職員)

看護助手 藤田純子ふじたじゆんこ

(病棟勤務)

(平成28年7月1日付)

【退職】

看護師 倉内信子

看護助手 木村由美子

(平成28年8月31日付)

【採用】

(期間業務職員)

看護助手 金子理香かねこりか

(病棟勤務)

(パート職員)

看護助手 齊藤浩子さいとうひろこ

(第1センター勤務)

(平成28年9月1日付)

【退職】

外科医師 齋藤 傑 (弘前大学医学部附属病院へ)

(平成28年9月30日付)

【採用】

外科医師 木村俊郎きむらとしろう

(弘前大学医学部附属病院より)

(期間業務職員)

看護助手 三浦康世みづらやすよ

(盲人会勤務)

(定員内職員)

介護員 鈴木恒志郎すずきこうしろう

(賃金職員より)

(以上平成28年10月1日付)

【採用】

(期間業務職員)

看護助手 清野千菜せいのちな

(中央センター1階勤務)

(パート職員)

作業手 (除雪) 小笠原幸雄おがさわらゆきお

小寺一生こてらかずお (福祉室勤務)

(以上平成28年11月1日付)

【採用】

(期間業務職員)

看護助手 大橋愛夢おほはしえむ

(病棟勤務)

(パート職員)

作業手 (除雪) 八木橋やぎはし

学 福士博之まなぶ ふくしひろゆき、竹内福蔵たけうちふくぞう

(福祉室勤務)

(以上平成28年12月1日付)

成瀬豊画文集刊行



松丘保養園松桜会は、「ハンセン病問題の歴史等の啓発活動を行い偏見差別のない社会に寄与すること」を目的に活動しております。その事業の一環として、この度「成瀬豊画文集」を刊行する運びとなりました。

60年以上をハンセン病療養所で暮らした成瀬豊さんが残した絵、イラスト、言葉が、私たちに語りかけてきます。奥様のテルさんの活き活きとした写真が訴えてきます。

「私達はここにいっても幸せだった」と。

どうかみなさま、この画文集を通して、ハンセン病療養所の生活の一端を感じてください。

A5版 112頁 本体1000円(税込)

監修 一般財団法人 松丘保養園松桜会

編集 一般社団法人ヒューマンライツふくおか

(問い合わせ)

一般財団法人 松丘保養園松桜会

〒03810003

青森市石江字平山一九

国立療養所松丘保養園 福祉室 千葉まで

電話 〇一七七八八〇一四五

FAX 〇一七七八八〇一四八

e-mail 2301iy01@matnoka.nhds.go.jp

自治会日誌

九月中

- 1日 9/1付採用職員2名 挨拶に来訪
- 2日 厚労省 松本国立ハンセン病療養所管理室長 来訪、将来構想に関する打ち合わせ
- " 自治会選挙管理委員会開催
- 3日 自治会選挙 立候補受付
- 5日 自治会選挙 投票並びに開票
- 6日 新城小学校2年生6名、引率者1名来園(町探検)
- 7日 第17回執行委員会
- 8日 保健科運営委員会
- 12日 第13回園内教育研修セミナー
「青森県の「短命」から学ぶもの」
講師・中路重之教授(弘前大学大学院医学研究科社会医学講座)
- 15日 平成28年度敬老会
- 16日 第18回執行委員会
- " 次期執行委員組織会
- 21日 松岡正剛事務所 太田氏、外3名来訪、日本財団ウェブサイトに掲載の為の取材
- 23日 第19回執行委員会

- 27日 弘前大学人文学部・教育学部24名来園、石川会長が講演
- 28日 倫理委員会(会長)

十月中

- 1日 第20回秋季親善交流ゲートボール大会
- 3日 10/1付採用職員2名 挨拶に来訪
- " 平成29年度医療改善・予算獲得統一行動の為、石川会長出張(6日帰園)
- 6日 松風塾高等学校2年生によるマンドリンオーケストラ演奏会
- 13日 新城小学校1年生51名、引率3名来園、園内を散策
- " 横手結核予防婦人会訪問研修
- 14日 第1回執行委員会
- 17日 10/17付採用職員1名 挨拶に来訪
- 18日 第1回松桜コンサート
- 21日 佐藤直子氏クラリネット演奏会
- 国立ハンセン病資料館 黒尾氏外2名、収蔵物の状況等調査の為来訪
- " 防災訓練
- 24日 平成28年度物故者慰霊祭
- 27日 秋田周辺地区結核予防婦人会訪問研修

28日 デーリー東北新聞社 三浦記者来訪

十一月中

1日 11/1付採用職員1名 挨拶に来訪

厚生病院附属看護専門学校3年生18名、施設見学の為来園、石川会長が講演

4日 「桜の根の治療について」勉強会 講師・逢坂淳樹木医

5日 桜の根の治療実践

8日 新城中学校2年生、職場体験学習の為来園

(9日)

9日 除雪計画打ち合わせ

10日 保健科運営委員会

11日 第2回執行委員会

13日 女八十九歳逝去 青森県出身

14日 大瀧村民生児童委員8名、視察研修の為来園、石川会長が講演

17日 秋の収穫祭(餅つき)

倫理委員会(会長)

18日 大館地区結核予防婦人会慰問

24日 甲田の裾編集局企画運営会議

青森市長選挙不在者投票

高知県健康政策部訪問

25日 歌つこ広場

27日 青森市長選挙

28日 第2四半期自治会会計業務監査(29日)

デーリー東北新聞社 三浦記者来訪

編集後記

この度、一般財団法人 松丘保養園松桜会(元の慰安会)、初の試みとして、故 成瀬豊氏の画文集が刊行されました。その中で特に印象に残ったのは、「叫び」の絵に付随されている、生前の成瀬氏が残された話です。よくぞここまでと思うほど、一字一句、氏の話し方を理解され再現したものだと感心しました。

同時に成瀬氏が残された作品の多さにも驚かされました。包装紙やカレンダーの裏に丁寧に描かれた作品を大切に保存されていたそうです。

画文集の発行は、奥様の希望ということでしたが、残念ながら見ることも叶わず、豊さんの許へ旅立たれました。あの世で、二人で喜んでいることでしょう。

編集にご尽力された関係者の方にも感謝申し上げます。

(佐藤 勝)

園内の出来事

○平成28年度敬老会(9月15日)



さくら保育園によるお遊戯



鈴木さん(右下)も女性職員と一緒に
ハンドベルに参加

○松風塾高校マンドリン演奏会(10月6日)



2年生12名が練習の成果を披露



演奏会終了後の茶話会では笑顔で歓談

○第1回松桜コンサート 佐藤直子氏クラリネット演奏会(10月18日)



クラリネット奏者 佐藤直子氏



司会の笠原さんとのスペシャルセッション

国立療養所松丘保養園要覧

松丘保養園は国立のハンセン病専門の療養所で、創立してから今年で107年の歴史があり、ハンセン病患者の医療と福祉を事業としております。

所在地

青森市大字石江字平山十九

園 長 川 西 健 登

保有敷地 二三〇、五四八平方米

(六九、八六三坪)

建て面積 三〇、三五八平方米

(九、一九九坪)

延べ面積 三六、〇三六平方米

(二〇、九二〇坪)

交通案内

□電車の便

1. 東北新幹線・新青森駅下車

(車で約3分)

2. 奥羽本線津軽新城駅下車

(車で約5分)

□バスの便

1. 青森市営バス西部営業所行

2. 弘南バス浪岡・五所川原・黒石

行き 共に松丘保養園前下車

□航空機の便

青森空港より(車で約30分)

□高速自動車道の便

青森ICより(車で約5分)

□なお保養園に隣接して桜の名所三

内霊園(1km)と国の特別史蹟指

定の三内丸山縄文遺跡や県立美術

館(2km)等があります。

発行所

一般財団法人 松丘保養園松桜会

所在地

〒〇三八一〇〇〇三

青森市大字石江字平山十九番地

電話(017)(788) 〇一四五・〇一四六

発行人 川 西 健 登

編集人 甲田の裾編集委員会

印刷所

青森市本町二丁目十一十六

青森オフセット印刷株式会社

電話(017)(775) 一四三一番